

2ハンドル混合水栓

1.施工の前に

安全上のご注意

- 施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
- ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。
- いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 施工完了後、正常に作動することを確認してください。お客さまに引き渡すときは、取扱説明書にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- この施工説明書は、取扱説明書と共にお客さまで保管頂くように依頼してください。

用語および記号の説明

注意

「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」

注意

「注意しなさい！」(上記の『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。)

禁止

「してはいけません！」(一般的な禁止記号です。)

分解禁止

「分解してはいけません！」

指示

「指示通りにしなさい！」(一般的な行動指示記号です。)

注意		
禁止	湯水を逆に配管しないでください。 ※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをする恐れがあります。	
禁止	給湯器の給湯温度設定は85℃より高温でご使用しないでください。 ※水栓が破損し、ヤケドや家財を濡らす恐れがあります。	
禁止	衝撃を与えたり、もたれかかったりしないでください。 ※破損してケガをしたり、漏水や故障の原因となります。	
禁止	寒冷地用の場合、水抜栓以外の目的で開けないでください。 ※湯水が噴き出し、ヤケドや家財等を濡らす恐れがあります。	
分解禁止	修理技術者以外の人は水栓を分解したり、修理したりしないでください。 ※ケガをしたり、故障・破損の恐れがあります。	
指示	給水圧力は必ず給湯圧力以上にしてください。 ※正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。	
指示	お客さまに引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。 寒冷地仕様の水抜方法は、取扱説明書を参照ください。 ※凍結破損で漏水し、家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。	
指示	必ず施工説明書の指示通りに施工してください。 ※誤った施工方法をされた場合、器具が外れ、ケガをする恐れがあります。	

本製品の仕様と使用条件

給湯温度設定	85℃以下	使用可能水質	水道水および飲用可能な井戸水(※1)
使用環境温度	【一般地用】	0～40℃	但し、内部の水を凍結させないでください。
	【寒冷地用】	－20～40℃	
取 付 ピ ッ チ	140～215mm	シャワーホース長さ	1.5m
給水給湯接続	PJ1/2		
圧 力 条 件	0.05MPa(流動圧)～0.75MPa(静水压) 給水圧力≧給湯圧力(※2)		

※1 飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水をいう。
※2 給湯圧力が給水圧力よりも高い場合、正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。

BF-WM115H型
RBF-892型
BF-WM405型
SF-WL63RQ型

BF-WL115H型
BF-WL205H型
BF-WL405型
SF-WL63KQ型

工事店様へのお願い

貴店名ならびに据付引渡し日を保証書にご記入の上、お客さまに必ずお渡しください。また、定期的に交換が必要な部品があることをお客さまに必ずお伝えください。

商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。
なお施工完了後、この施工説明書を同梱の「取扱説明書の袋」に入れてお客さまにお渡しください。

ガス給湯器（比例制御式：16号相当）と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力	A+0.05MPa（流動圧）※Aはガス給湯器の最低作動圧力です。
最 高 圧 力	0.75MPa（静水压）

- 測定条件は次の通りです。
- 給水温度5℃、吐水温度42℃(ガス給湯器との組み合わせが最も悪い冬季を想定)。
 - 給水圧力はガス給湯器直前における流動圧です。
 - ガス給湯器の設定温度は最高温度です。

貯湯式給湯器と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力	0.05MPa（流動圧）
最 高 圧 力	0.75MPa（静水压）

- 給水圧力と給湯圧力の差を小さくしてください。温度調節が容易になり使いやすくなります。

その他の条件

- 給水圧力が0.75MPaを越える場合は、市販の減圧弁で適正圧力(0.20～0.39MPa程度)に減圧してください。
- 給湯に蒸気は使用できません。
- 不意の出湯によるヤケド防止のため、給湯器の設定温度は60℃以下にしてください。

施工前のご注意

取付けに必要な工具

水栓本体の取付けに必要な工具
スパナ(呼び30) モンキーレンチ(呼び250以上)

施工後の調節に必要な工具
ドライバー(－) ドライバー(+)

取付脚、持出しソケット(ザルボ)の取付けに必要な部材
シールテープ

持出しソケット(ザルボ)が外れた場合に必要の工具
パイプレンチ(呼び300以上) 六角レンチ(呼び12)

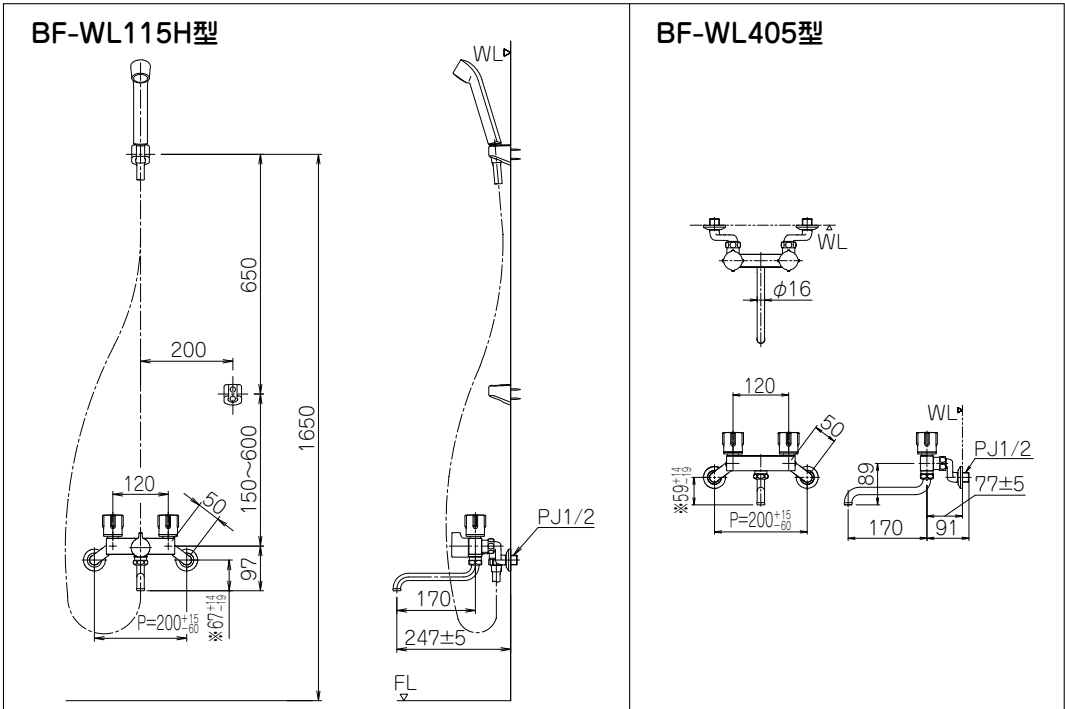
シャワーフックの取付けに必要な工具
電気ドリル アンカープラグ ドライバー(+)

※既存のシャワーフックを利用する場合は不要です。
※シャワーフックの取付ビス(呼び4.5×30)に合うアンカープラグを別途ご用意ください。

- 注意点
- 給水は上水道に接続してください。
※温泉水など異物を多く含む水には使用できません。
 - 給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確認してください。
※逆配管では表示通りに湯が出ません。
 - 給湯配管はできるだけ短くし、必ず保温材を巻いてください。
 - 商品の表面には直接工具を掛けしないでください。
※工具を掛ける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。
 - 開梱、取付けの際には商品の表面にキズを付けないように十分に注意してください。
 - 必ず配管中の異物を完全に洗い流してください。
 - 古い水栓からの取替えの際は、取付脚ごと交換してください。
※取付脚をはずす際は、配管が破損しないよう細心の注意を払って作業してください。
 - 通水検査時の検査水が残っている場合がありますが、商品には問題ありません。

施工完了図

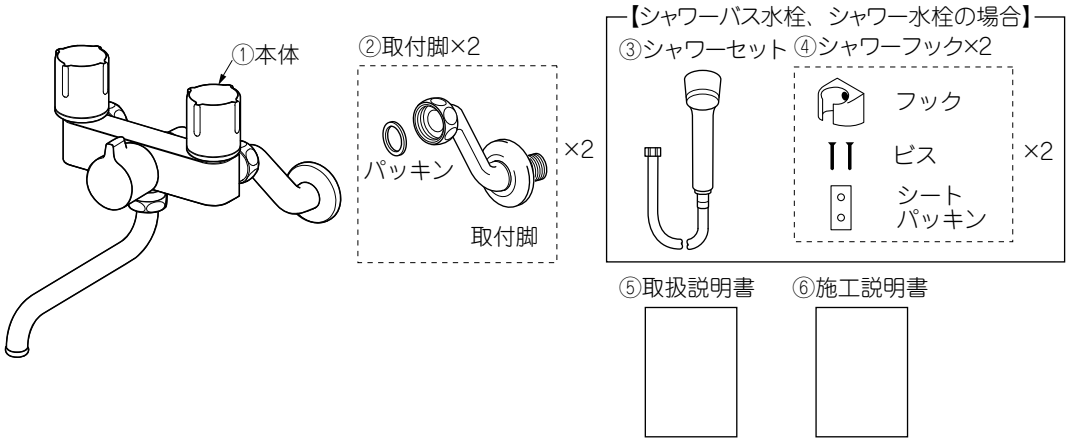
※品番によっては図と現品の形状が異なります。



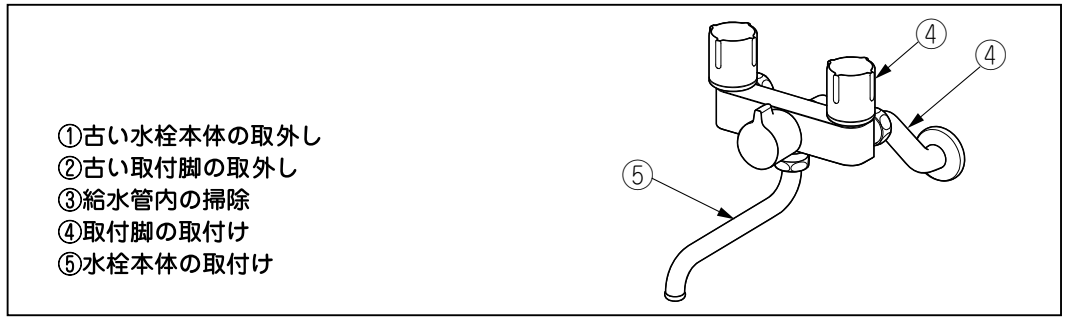
※印寸法は、配管ピッチ(P)が最大～最小の場合を（標準寸法 最大 最小）で示しています。

同梱部材の確認

※品番によっては図と現品の形状が一部異なります。



施工手順



2. 施工方法

以下の手順通り、正しく取り付けてください。

1 古い水栓本体を取り外す

新設の場合は、**4 取付脚を取り付ける** へ進んでください。

1. 元栓を開める。

ポイント

- 戸建住宅の場合、敷地境界付近のメーターボックス内、またはその近くの止水栓ボックスの中にあります。

<例>

- 集合住宅（マンション等の中高層住宅）の場合、玄関付近にあるパイプシャフト内にあります。

<例>

注意 水栓のレバーハンドルを開いて、水が出ないことを確認してください。

2. スパナで袋ナットを緩めて、取付脚から水栓本体を取り外す。

ポイント 袋ナットは交互に少しずつ緩める。

注意

- 外した水栓本体を落とさないよう注意してください。
※水栓本体は重量があり、ケガをする恐れがあります。
- 湯側の取付脚に注意してください。
※湯をお使いの後は取付脚が高温になっており、ヤケドをする恐れがあります。
※取付脚内に滞留した高温の湯が出て、ヤケドをする恐れがあります。

2 古い取付脚を取り外す

1. 手で取付脚を図の方向（壁に向かって反時計回り）に回して取り外す。

ポイント 取付脚はゆっくりと回す。

注意 湯側の取付脚、配管に注意してください。
※湯をお使いの後は取付脚が高温になっており、ヤケドをする恐れがあります。
※取付脚、配管内に滞留した高温の湯が出て、ヤケドをする恐れがあります。

取付脚と一緒に持出しソケット（ザルボ）が外れた場合

※持出しソケット（ザルボ）は給水管を壁まで取り出す際に取り付ける調整用部材です。

1. パイプレンチ等で持出しソケット（ザルボ）を挟み、取付脚から取り外す。

2. 持出しソケット（ザルボ）のネジ部のゴミを取り除く。

3. シールテープを持出しソケット（ザルボ）のネジ先端部に巻く。

ポイント

- シールテープは引張り気味にネジの谷間に挟み込む強さで、ネジの締付方向（ネジに向かって時計回り）に巻き、巻き終わったらそのまま引張ってちぎる。
- シールテープの巻数は約 8 回が目安です。



シールテープは逆方向に巻かないでください。
※漏水の原因となります。

六角レンチがある場合

4. 持出しソケット（ザルボ）を給水管にねじ込み、六角レンチで締め付ける。

注意 給水管内にゴミやシールテープが付着している場合は、ブラシ等で取り除いてください。
※漏水や水栓金具の故障の原因となります。

4 取付脚を取り付ける へ進んでください。

六角レンチがない場合

4. 新しい取付脚の送り座（ワン座）をネジ部の奥まで入れ、シールテープをネジ先端部に巻く。

ポイント

- シールテープは引張り気味にネジの谷間に挟み込む強さで、ネジの締付方向（ネジに向かって時計回り）に巻き、巻き終わったらそのまま引張ってちぎる。
- シールテープの巻数は約8回が目安です。

注意 シールテープは逆方向に巻かないでください。
※漏水の原因となります。

5. 持出しソケット（ザルボ）をパイプレンチ等で、新しい取付脚のネジ部に取り付ける。

注意 取付脚に持出しソケット（ザルボ）を取り付けた状態で作業を進める場合、**4 取付脚を取り付ける** 文中の「取付脚のネジ部」は「持出しソケット（ザルボ）のネジ部」となりますので、ご注意ください。

3 給水管内を掃除する へ進んでください。

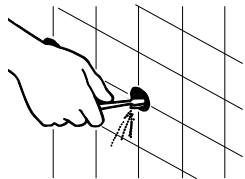


- 取付脚にタオル等を当てて作業してください。
※ネジ部で手を切る恐れがあります。
- 取付脚は無理に外さないでください。
※給水管が古い場合、破損する恐れがあります。

3

給水管内を掃除する

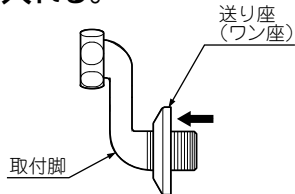
1. 給水管内にゴミやシールテープが付着している場合は、ブラシ等で取り除く。



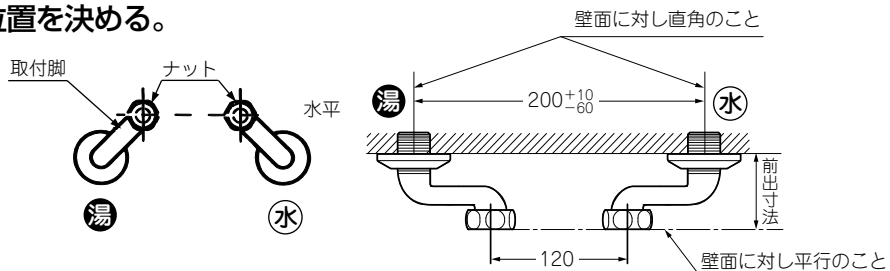
4

取付脚を取り付ける

1. 送り座（ワン座）を取付脚のネジ部の奥まで入れる。
2. 取付脚を配管に最後までねじ込む。



3. ねじ込んだ位置から取付脚を緩めて、湯側、水側の取付脚のナットの位置が水平、壁からの前出寸法が同一、かつナットのピッチが120mmになる最短の位置を決める。



4. 取付脚を反時計回りに回し、配管から外れるまでの回転数を確認する。

ポイント

回転数を書いておきましょう。

回転数

右：

回転

左：

回転

5. シールテープを取付脚のネジ先端部に巻く。

ポイント

- シールテープは引張り気味にネジの谷間に挟み込む強さで、ネジの締付方向（ネジに向かって時計回り）に巻き、巻き終わったらそのまま引張ってちぎる。
- シールテープの巻数は約8回が目安です。

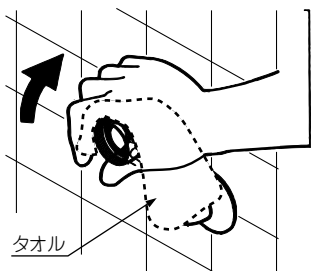


シールテープは逆方向に巻かないでください。
※漏水の原因となります。

6. 取付脚を給水管に取り付ける。

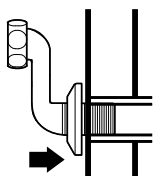
ポイント

確認した回転数の約1回転手前で一度止めて、その後ゆっくりと前出寸法、取付ピッチを合わせる。



- 取付脚にタオル等をあてて作業してください。
- 取付けた後、逆方向に回さないでください。
※配管との接続が緩み、漏水の原因となります。
※逆方向に回した場合は、シールテープを巻き直して再度取付けてください。

7. 送り座（ワン座）を壁面に合わせる。



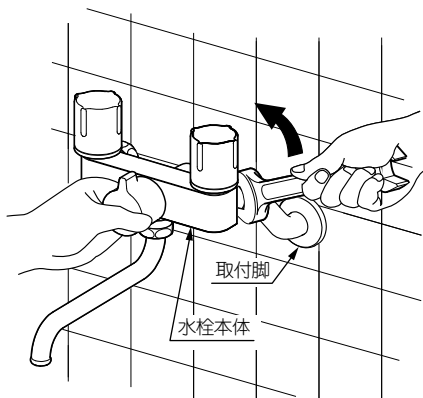
5

水栓本体を取り付ける

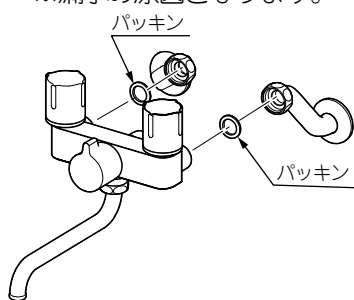
1. 取付脚に水栓本体を取り付ける。

ポイント

水栓が水平に取付くように注意しながら、スパナで湯側、水側の袋ナットを交互に締め付け、しっかりと固定する。



取付脚の袋ナットにパッキンが入っていることを確認してください。
※漏水の原因となります。

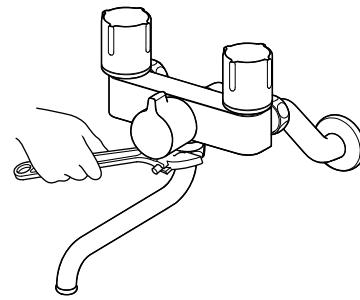


6

吐水口の接続確認

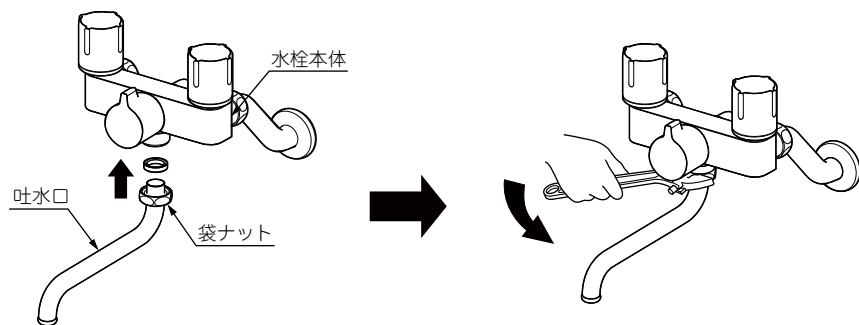
吐水口が組付いている場合

吐水口がしっかり接続されているか確認する。



吐水口が外れた場合、吐水口が同梱で組付が必要な場合

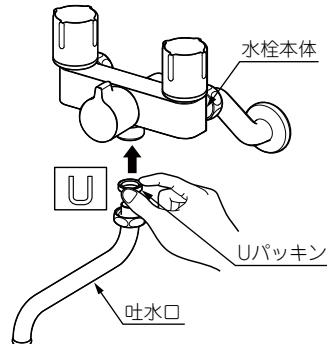
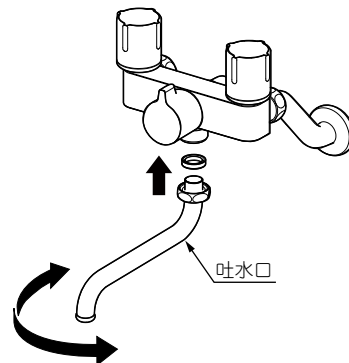
水栓本体に吐水口を差し込み、モンキーレンチで袋ナットを締め付ける。



ポイント

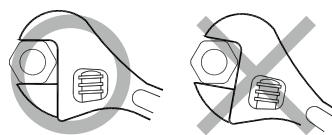
- 差し込みにくい場合は、吐水口を左右に振りながら押し込んでください。

- Uパッキンが脱落した場合は、まずUパッキンを水栓本体に挿入してから、吐水口を差し込んでください。



- 袋ナットの締付けにモンキーレンチを使用する場合は、先端の幅を袋ナットの2面幅に合わせてください。
※締付け不足により、漏水の原因となります。

- 袋ナットの締付けにモンキーレンチを使用する場合は、工具の向きにご注意ください。
※締付け不足により、漏水の原因となります。
※水栓金具や工具が破損する恐れがあります。



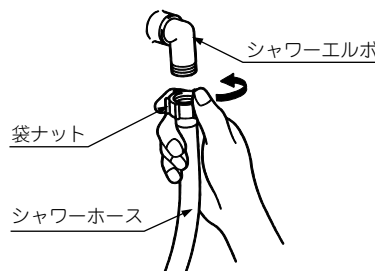
7

シャワーの取付け

1. シャワーホースとシャワーエルボの接続は、保護キャップを外してから手締めでしっかりと固定します。

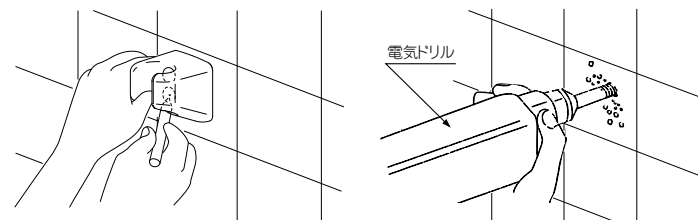
注意

- 工具を使用するとシャワーホースの袋ナットがキズつく恐れがあります。
- シャワーエルボは所定の角度範囲で回転するように調節してあります。工具等を用いて無理に締め込まないでください。
※破損の恐れがあります。

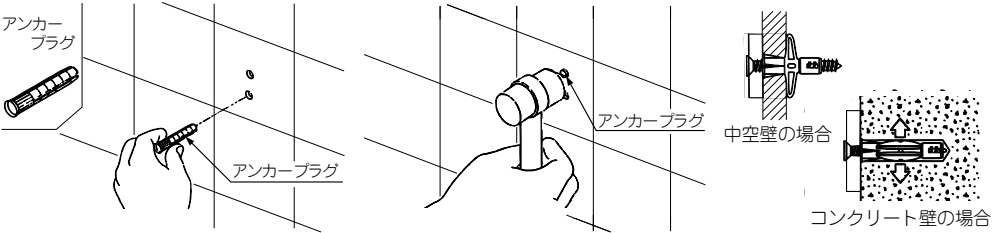


2. シャワーを壁面に取付けます。
※既設のシャワーフックを利用する場合は、取り付ける必要はありません。

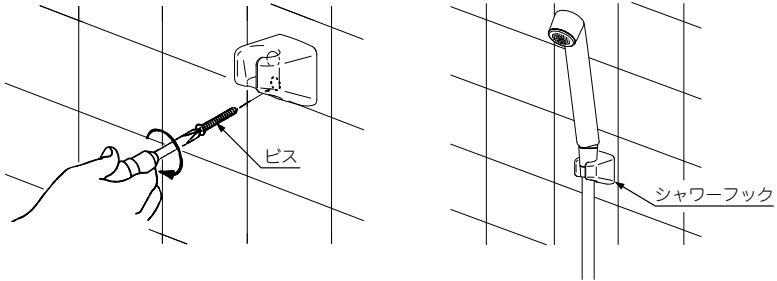
1. 施工完了図を参考にシャワーフックの取付位置を決めて、ネジ穴をマーキングして電気ドリルで穴あけをします。



2. ビス（呼び4.5×30mm）に合ったアンカープラグをネジ穴に差し込み、壁からはみ出さないようにハンマー等で軽くたたいて埋め込みます。
※アンカープラグは別途ご用意ください。
※コンクリート用と中空壁用のアンカープラグがあります。コンクリート壁の場合はコンクリート壁用をご使用ください。ユニットバスの場合は中空壁用をご使用ください。
※ネジ穴をあける時には、壁面裏側のガス管や給水管等にご注意ください。



3. シャワーフックの裏側にシートパッキンを貼った後、ドライバーでビスを締め付け固定します。



3. 施工後の調節

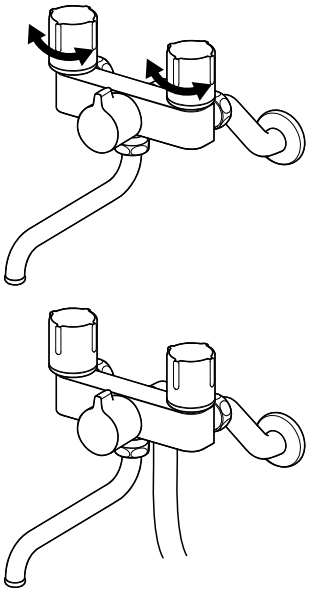
水栓の機能を十分に発揮させるために、通水確認時に以下の項目を必ず確認してください。

1 通水確認

通水確認を以下の要領で行ってください。

1. 元栓を開ける。

2. 湯側・水側のハンドルを開き、シャワー・バス切替ハンドルを吐水口側（右）に回し、吐水口から水が出ることを確認する。また、シャワー・バス切替ハンドルをシャワー側（左）に回し、シャワーから水が出ることを確認する。

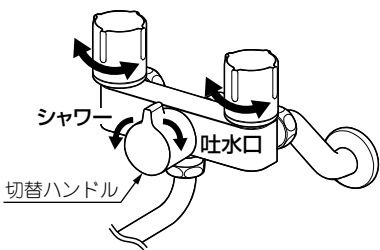


3. 水を止め、接続部から漏水がないことを確認する。

2 流量の調節

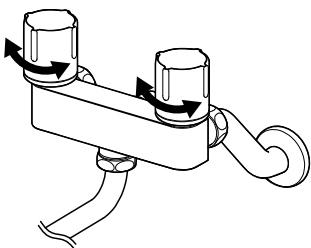
1. 水栓の機能を十分に発揮させるため、給水圧と給湯圧の差が大きい場合は、差圧ができるだけ小さくなるように減圧弁を使用して大きい側を減圧してください。

1. BF-WM115H型、BF-WL115H型、BF-WL205H型の場合



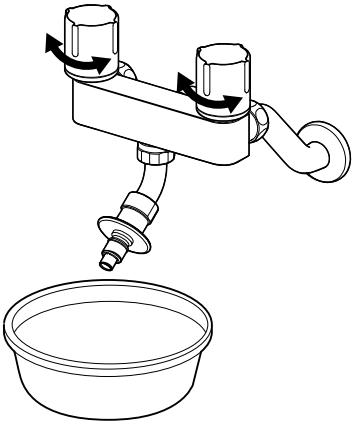
- 切替ハンドルを右（吐水口側）に回してから、湯側・水側のハンドルを開き吐水口から水が出る事を確認する。（※BF-WL205H型にはありません）
- 切替ハンドルを左に回して、シャワーから水が出る事を確認する。

2. BF-WL405型、BF-WM405型の場合

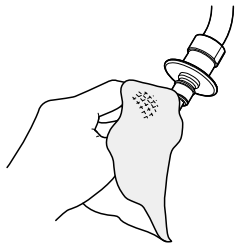


- 湯側・水側のハンドルを開いて、吐水口から水が出る事を確認する。

3. SF-WL63RQ型、SF-WL63KQ型の場合
※水受けの容器を準備してください。



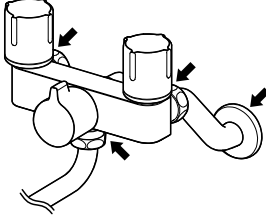
- 湯側・水側のハンドルを開く。
- タオル等を用いて、吐水口先端の白い部品を押し込み、水が出る事を確認する。



2. 水を止め、接続部から漏水がない事を確認する。

ポイント

SF-WL63RQ型、SF-WL63KQ型の場合は、ハンドル閉止後に、緊急止水弁を解除してください。



4. 引渡前の確認

引渡前および故障時の点検は以下の要領で行ってください。

●故障と点検

※点検箇所は右図を参照してください。

現象	点検内容	点検箇所	処置
流量が少ない	圧力は十分か？	－	「本製品の仕様と使用条件」の項参照。
	配管途中に大きな抵抗はないか？	－	抵抗となる障害物を取り除く。
	元栓は十分開いているか？	－	元栓を十分開く。
	ゴミ詰まりはないか？	－	ゴミ等を水で洗い流す。
水が止まらない	ゴミかみはないか？	①	ゴミ等を水で洗い流す。
	キズはないか？	①	パッキン（別売）を交換する。
	ハンドルはしっかり閉めているか？	②	ハンドルをしっかりと閉める。
ハンドルががたつく	ゆるみはないか？	③	ハンドル止めビスをしっかりと締める。
希望の温度が得られない	圧力は十分か？	－	「本製品の仕様と使用条件」の項参照。
	流量調節はよいのか？	－	「流量の調節」の項参照。
	給湯器の温度設定はよいのか？	－	「本製品の仕様と使用条件」の項参照。

